

何があっても左右されることのない本当の幸せとは、どのような状態でしょうか？それがこの世に限定されたものではないこと、物質的な充足のみではないことは、きっと誰もの頷かれるところだと思います。

しかし、その先にある答え、精神性における具体的な幸福像、その状態のイメージが漠然としていてわからないというお話を伺うたびに、私は“言(ことば)の枝葉である言葉(ことのは)”で理解を共有することの難しさを感じています。

例えてみますとそれは、「ほら、太陽はあそこですよ」と指差し示されても、太陽を見ずに指し示した指を見る（言葉に把われる）ケースが多いからだといえます。それは、昔の私達を振り返ってみればよくわかります。

自分自身を不完全なものと信じ込んでいた頃には、「人間の生命は本来、完全円満なものであって不完全な存在ではないんだよ」という真理を、どんなに見聞しても、どんなに他人に説明されても、自分自身に対する認識とその真理があまりにもかけ離れていて、「そんなわけない」「そうであるならば、私たちはこんなにも苦しまないはず」といった葛藤が生じていました。

そうした精神状態は、言葉尻に引っ掛かって本質を掴めないでいた状態であり、指し示された方向を見る行動を起こさないで、指し示された指を見つめるにとどまっていた状態だといえます。では、私達はどのようにして、自他の神聖を認められる現在の意識に至ったのでしょうか？

そこに、冒頭の『何があっても左右されることのない本当の幸せ』の状態を言語化する鍵があります。一言で云えば、神聖復活した意識で生きている精神状態です。もっと端的に表現すれば、どんな“こと”や“もの”や“ひと”に対しても、「有り難いなあ」と心底から感じている状態であります。

またそれは、すべての批判・非難・評価の把われ（思い込み・こだわり・決め付け・執着）を手放した状態だともいえます。では、私達はどのような道を通して、批判・非難・評価の把われを手放してきたのでしょうか？

その道のりは、神聖復活するに至った人の数だけあると存じますが、私自身を振り返りますと、祈りや印といった“他の人と共同で行える真理の行為”以外に、自分自身を育てる行為として、日常における徹底した全感謝行(何ごと何ものにも感謝し続ける取り組み)と、光明の言葉のアウトプットとインプット(他の想念が入り込む隙間がない状態で、光・真理・神聖の言を唱え続ける行為)を行ない続けたことでした。

それによって気が付かないうちに、自己認識の軸が神聖そのものに成り変わり、それに伴って五感に感じる他の存在の神聖を当り前のように観ることが出来るようになっていったのだと思います。

土曜日の夜は、すでに本当の幸せを実感しておられる方々と、もう少しでそうなる方々が一堂に集い、お互いが互いのラダーとなって、神聖の極みに引き上げ合う日にいたします。

2024 年 5 月 11 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 初めの話

皆様、こんばんは。夜のズーム祈りの会を始めます。

本日ははじめに、ここ 2 週間ほどの間に、私がメールや電話でやり取りをした全国の方々の状況について、共有いたします。

とても印象に残っているのは、何人の方が「ありがたくって、ありがたくて」とか、「もうね、いいことしか起こらないのよ」とか、「おかげさまで幸せよ」とおっしゃっておられることです。

一方で、お悩みを抱え、苦しまれておられる方もいますが、そのような方も、もう少しです。もう少ししたてば、もう少しすれば、神聖の視座が甦って、すべてが必ずよくなります。

なぜならば、それが神聖復活の印を組んでいる私達の未来であり、神界との約束事だからです。現に、全国でたくさんの方が既に本当の幸せをつかみ取っておられます。

これは励ますためについている嘘でも方便でもなく事実です。世界の平和を祈り続けている私達は、誰もが、何があっても左右されることのない真実の幸せをつかみ、自らの人生に生かしてゆくことができます。

そのためのベースは、私達自身の神聖を絶対なる自らの本質・原点として認めることです。自らの神聖に対する疑いが微塵もない状態になるまで、私達自身を磨き、育て、高め上げることです。

そのために、祈りや印といったみんなで行われる行を継続するとともに、私達一人一人、自分自身にしかできない自己教育や神聖育てを、諦めないで継続することです。

それは例えば、もうこの何週間の間にやっておりますけれども、「我即神也、我即神也、我即神也、我即神也、我即神也、我即神也、我即神也、我即神也…」とか、「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就…」とか、「人間は本来、神の分霊であって業生ではなく、常に守護霊守護神によって守られているものである。人間は本来、神の分霊であって業生ではなく、常に守護霊守護神によって守られているものである…」といった光・真理・神聖の言(ことば)を、他の想念が入り込む隙間のない状態で、一日の中で時間のある時に何回も唱えることです。

また、そうしていないときには、呼吸をゆったりとした状態に保ち続け、意識の中心軸を臍下丹田に沈め続けたり、お祈りをしたり、印を組んだりします。そうした練習を積み重ねてまいりますと、私達の心と体が神聖の響き・波動に徐々に慣れていって、その自分育ての状態が臨界点に達した暁には、知らない間に「神聖、当たり前。すべてがありがたいばかり。幸せしか感じなくなった。」という心が変わってまいります。

本日は、そのための意識の初期設定、マインドセットになるようなプログラムを行なってまいります。はじめに、世界平和の祈りを行い、次に音楽をかけながら内なる分断を統合させて、神聖の視座を取り戻していく時間、マインドフルネス効果のある時間をとります。そして最後に神聖復活の印を 7 回連続×3 回で合計 21 回組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、世界平和の祈りを、日本語と英語で行ないます。



【世界平和の祈り】

世界人類が平和でありますように
日本が平和でありますように
私たちの天命が完うされますように
守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.
May peace be in our homes and countries.
May our missions be accomplished.
We thank you, guardian divinities and guardian spirits.



2. 内なる分断を統合させて神聖の視座を取り戻す時間

ありがとうございます。次は内なる分断を統合させて、神聖の視座を取り戻していく時間にいたします。

先ほど、「マインドフルネス効果のある時間」と申しましたが、マインドフルネスとは、「意図を持って、評価や判断を手放して、今この瞬間に注意を払うことから湧き上がる気づきの状態」であるといわれております。

この後に音楽を流しますので、5 分間ですね、そのときに目を閉じて、心の中にあるいろいろな性質の自分を批判や非難・評価などをせず、ただただ「こんな自分がいたんだ」「そんな自分もいたんだ」と認めてあげてください。

心の中に存在していた両面の自分をただ観て、ただ「ここにいたんだ」と発見して、認めてあげるだけで心が調います。その心の調いは、新陳代謝する新しい体の細胞を健康な細胞にして、病気とか老化というものと共存する現実を作ったり、また老化を遅らせたり、病気そのものがなくなったりする場合もあります。

はじめに、人間の想い・想念が、どのような形で存在しているのかという、想念の原理について振り返りたいと思います。

それは、宇宙子科学についての言及に触れたことのある方ならご存知のように、プラスとマイナス、陰陽の状態で現われます。これが想念に表われてきますと、もっと生々しくなるんですけど、加害者と被害者のような両極の自分が、どちらも共に存在している、同時存在しているということになります。想いには、そのようにプラスとマイナスの両面があって一つの想いを形成しています。

そのような意味では、私達の心の中には、のび太とジャイアンが同時存在していると言えます。ドラえもんを見たことのない方にはイメージできない言葉ですので言葉を変えますと、いじめっ子の自

分といじめられっ子の自分がセットになった形で存在しています。

また、その逆もあるんですけれども、私達の心の中には、そのように、自分を愛していない自分と自分に愛されていない自分、自分を愛している自分と自分に愛されている自分、自分を赦していない自分と自分に赦されていない自分、自分を赦している自分と自分に赦されている自分のように、両極の私達、両極の自分が同時存在しています。

それはちょうど、手の平と甲のようなものです。また、コインの表と裏、一日の中の明るい時間帯と暗い時間帯のような関係です。明るい時間だけを指して一日とは申しません。暗い時間帯だけを指して一日とも言いません。明るい時間があり、暗い時間があって、24 時間、一日ですね。

心の中でその表と裏、どちらかに偏って、自らを責め裁いたり、被害者意識に凝り固まっていたりしているその状態を続けていますと、他人が鏡の役割を果たして、映すように見せてくださっている自分自身の内面の実情を、相手のせいにする、他人に対する批判・非難・評価にすり替え、思い違いの想念の渦の中できりぎり舞いすることになります。

それは手に負えないほど、自らの想念を大きくしていった結果、肥大化させていった結果で、いのちの光をそのように表面化させないでいたならば、その重みに押しつぶされてしまうことがあります。

そのように、想いの状態がネガティブな側面にばかりフォーカスする状態にありますと、私達は人生の中で様々な不調和を経験します。そのような状態にあるときには、想いの塊がこのように、眼に張り付いている状態です。この状態になっているときには、自分自身を客観視することができません。またそのときには、他人に対しても、批判・非難・評価を繰り返す自分になっています。

そのようなときには、守護の神霊が周囲の人を使って行なうアドバイスの導きに対しても過剰に反応して、自分を守ろうとするようなことが起こります。

感情がこの手だとしますと、肉体の感情が自分だと思っているときは、こうやって心の眼を塞いでしまっている状態なんですね。

このようになっている（目隠しの状態）と、自らを客観視して、陰と陽のバランスを調えることができないんですけど、これを離して観ますと、いろいろな自分が観えてきます。そのように、観えるようになるための方法が、いつも申しております「他人に感じた想いを自らに向け直す」ということです。

他人に感じた想いが“鏡に映った自分の姿だった”ということですね。「そうだった、そうだった。人に感じたことの本当の原因は自分にあるんだ」って、思うこと。それを思うだけで、パッとこのように、心の眼を覆い隠していた想いの塊が、眼からこうやって離れて、心の眼で観える状態になります。

こうして離して見ますと、私の目には手の平が見えています。手の甲を目にくっつけている場合も、「そっか、自分だったんだな」って思ったときに、パッと手が離れて、手の甲が見えます。

この心の眼から離れた状態で見えるこの手こそが、自らの偏った思い込みの一面になります。もちろんそこには、善に対するこだわりとか思い込み、決めつけ、「こうすることがいいんだ」「こうあらねばならないんだ」というものもあります。

例えば、この手の平側が自らを赦していない自分だとしますと、裏側にある手の甲は、自らに赦されていない自分になります。心の目に張り付いていた想いをパッとこう離れたときに、片方を見ると、「自分を許していない自分がいたんだ」と気づく。

また、こうやって離して観ていると、動かしてみれば裏が観える。「あれ、裏があるね」って気づく瞬間があります。それは自分に赦されていないで、肩身の狭い想いをして生きてきた、気づけなかったもう一面の自分になります。

「ああ、人のせいだなんて事はなかったんだなあ」「すべてのネガティブな想いは、心のなかの様々な分断や偏りが原因になって起こっていたんだなあ」「いいとか悪いとか、一刀両断に出来るものなんてなかったんだなあ」「ああ、どんな自分も抱きしめてあげよう」「自分を愛そう」「自分を赦そう」「両極の自分を同時存在するものとして認めて、心の分断を統合してゆこう」

そのようなことを思うだけで、常日頃、人に感じている想いの動きを通して、心のアンバランスの状況どちらかに偏った状態が観えてきて、観るだけ、認めるだけで、それらの想いが仲良く共存し始めます。

今から音楽を流しますので、そのやり方の話を参考にして、もちろんご自分のメソッドを持っていらっしゃる方はそのやり方で構いません。ご自身の内面を見つめてみてください。今から 5 分間です。

音楽が始まる

音楽が5分間、流れます。その時に眼を閉じて、他人に感じた引っ掛かる想いをトリガーにして、自分の内面を見つめてみてください。そのポイントは、両極の片方を観ることを起点にして、もう片方の自分も同時存在していることを認める（発見する）ことです。またそのときには、決してジャッジ（批評）しないで、ありのままの自分にオーケーを出してあげてください。

★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★

3. 神聖復活の印

<一回目の宣言>

私達はすべての自然と一つに結ばれています。

すべての自然の天命は完うされています。

[Divine Spark IN seven times in a row]

<二回目の宣言>

私達はすべての生物と一つに結ばれています。

すべての生物の天命は完うされています。

[Divine Spark IN seven times in a row]

<三回目の宣言>

私達はすべての人類と一つに結ばれています。

世界人類の天命は完うされています。

[Divine Spark IN seven times in a row]

以上